資料 4

平成 18 年度第 1 回　苫小牧港地方港湾審議会

苫小牧港港湾計画（一部変更）【案】説明書

東港区弁天地区中央ふ頭
西港区汐見地区小型船だまり

平成 19 年 1 月

苫小牧港港湾管理者　苫小牧港管理組合

目　　次

１．　港湾計画（一部変更）について

２．　計画箇所

（１）要請と対応方針 1

（２）対象箇所 1

３．　施設計画

（１）東港区弁天地区中央ふ頭

Ⅰ．現状と課題 2

Ⅱ．外貿コンテナ貨物量の推計 3

Ⅲ．対応 4

Ⅳ．施設 5

（２）西港区汐見地区小型船だまり

Ⅰ．現状と課題 6

Ⅱ．対応 8

Ⅲ．施設 8

４．　苫小牧港港湾計画（一部変更）位置図 9

１．港湾計画（一部変更）について

国際コンテナターミナル機能の強化、船舶の大型化への対応、大規模地震災害への対応、小型船だまりの混雑解消という緊急性の極めて高い課題に対応する箇所について、港湾計画の一部変更を行う。

２．計画箇所

（１）要請と対応方針

要請

①西港区で取扱う外貿コンテナ貨物量の増加によるバース不足とそれに伴う滞船の増加､背後ヤード不足への対応

②船舶大型化への対応

③大規模地震発生時における緊急物資輸送機能の確保

④小型船だまりの係留施設等の不足への対応

対応方針

①国際・国内輸送ネットワーク拠点としての機能強化

・東港区弁天地区において、国際コンテナターミナル機能の強化・集約化を図る。

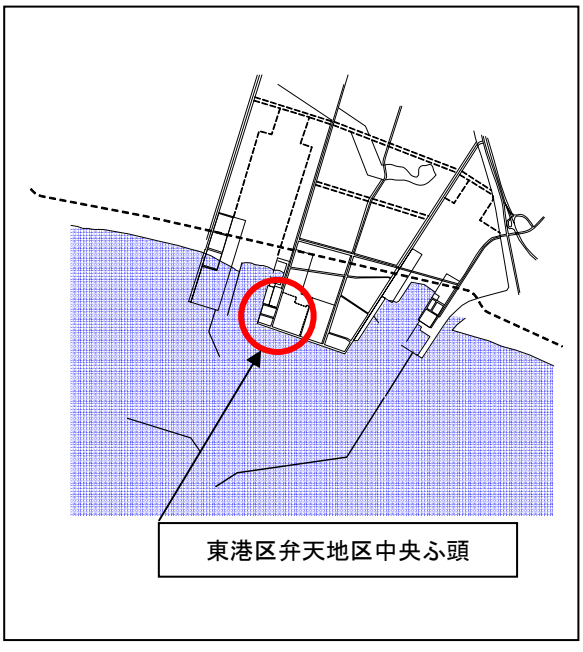
・西港区汐見地区において、タグボートの大型化への対応を図る。

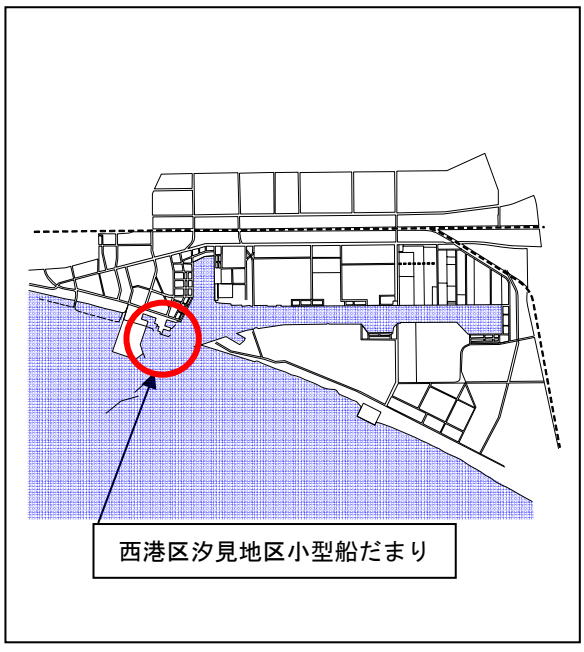
②安全・安心で信頼性の高い港湾空間の形成

・東港区弁天地区において、緊急物資輸送に対応した耐震強化岸壁を配置する。

・西港区汐見地区において、多層係留、荷捌用地不足の解消を図り、小型船の安全性を確保する。

（２）対象箇所





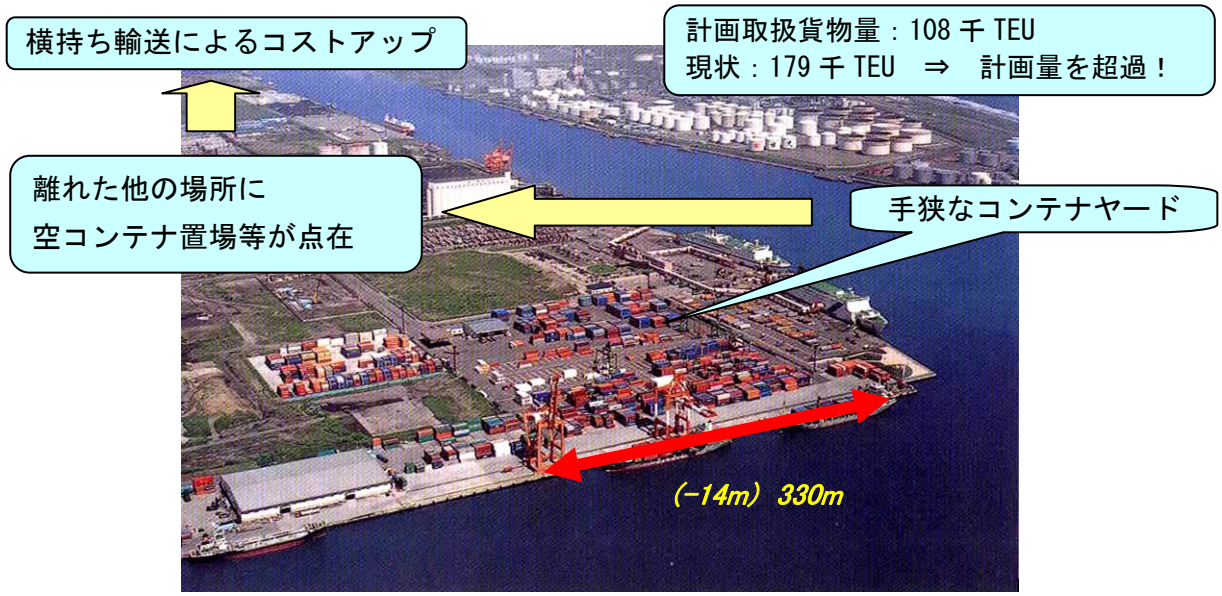
３．施設計画

（１）東港区弁天地区中央ふ頭

Ⅰ．現状と課題

西港区入船国際コンテナターミナルでは計画を上回る外貿コンテナ貨物の増加により、

バース数・背後ヤードが不足、滞船が発生



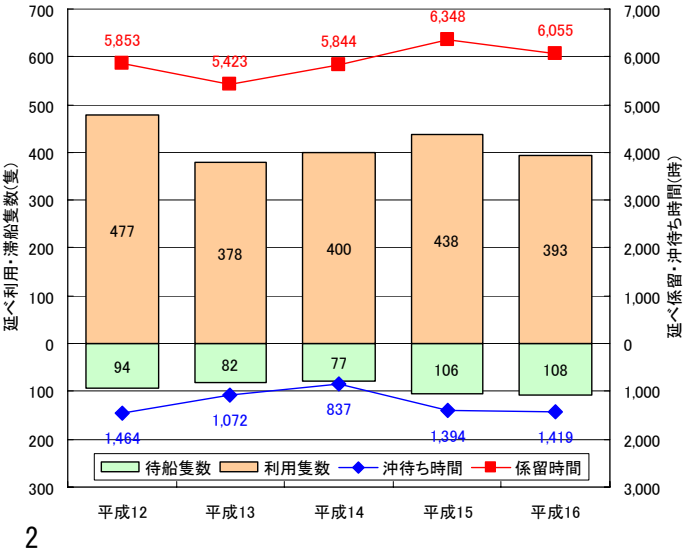
1）西港区入船国際コンテナターミナル（-14m 1 バース）における外貿コンテナ取扱量は、韓国航路など東アジア航路を中心に増加の一途をたどっており、計画上の取扱量を大きく上回っている。（計画 108 千 TEU、H16 実績 179 千 TEU）

2）外貿コンテナ取扱量の増加に伴い滞船が発生しており、近年では年間 100 隻以上（入港コンテナ船の約 1/4）、平均待ち時間は 10 時間を超え、定時性の確保が困難な状況となっている。

3）背後ヤードの不足により、周辺民有地を借り上げるほか、離れた他の埠頭用地を利用している状況にある。

西港区入船国際コンテナターミナルの利用と滞船状況

利用状況		平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
利用隻数		477	378	400	438	393
係留時間(時)		5,853	5,423	5,844	6,348	6,055
岸壁利用率		66.60%	61.90%	66.70%	72.50%	68.90%
取扱貨物量(トン)		1,455,186	1,618,648	1,757,648	1,795,568	2,130,838
取扱個数(TEU)		148,573	154,515	164,911	173,545	179,822
待船状況	待船隻数	94	82	77	106	108
	沖待ち時間(時)	1,464	1,072	837	1,394	1,419
	平均待ち時間(時)	15.6	13.1	10.9	13.2	13.1



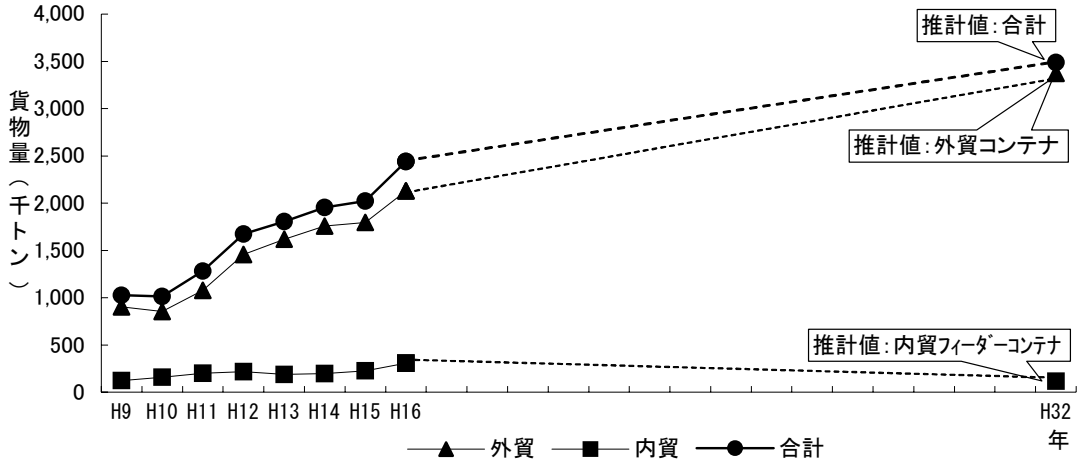
Ⅱ．外貿コンテナ貨物量の推計

苫小牧港の外貿コンテナ取扱量の推移及び推計値は以下の表及び図に示すとおりである。

外貿コンテナ取扱貨物量の実績推移と推計値

（単位：千トン）

外内貿別	実績値								推計値
	平成 9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成32
外貿コンテナ	903	854	1,079	1,455	1,619	1,758	1,796	2,131	3,373
内貿ﾌｨｰﾀﾞｰｺﾝﾃﾅ	121	158	202	218	187	196	227	309	116
計	1,025	1,012	1,281	1,673	1,806	1,954	2,022	2,439	3,489

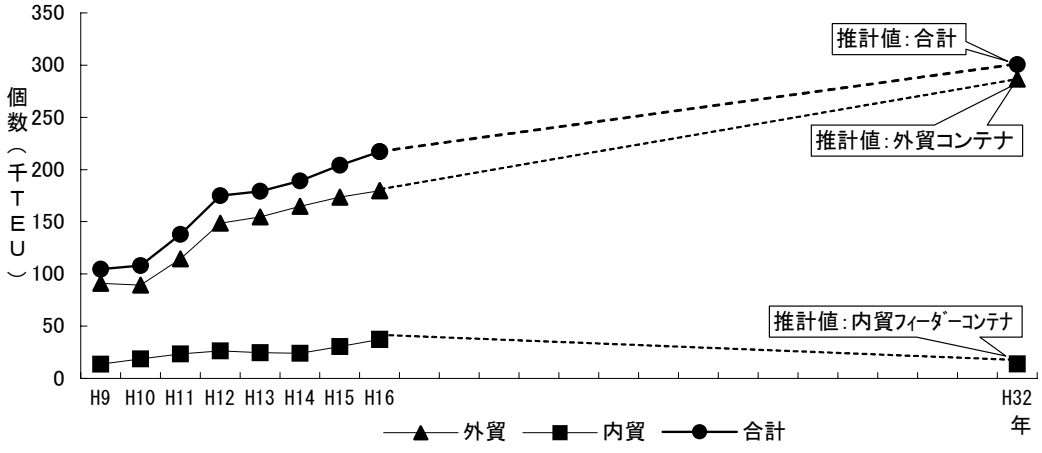


外貿コンテナ貨物量

外貿コンテナ取扱個数の実績推移と推計値

（単位：TEU）

外内貿別	実績値								推計値
	平成 9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成32
外貿コンテナ	91,020	89,342	114,481	148,573	154,515	164,911	173,545	179,822	286,700
内貿ﾌｨｰﾀﾞｰｺﾝﾃﾅ	13,587	18,554	23,526	26,382	24,657	24,095	30,634	37,332	13,800
計	104,607	107,896	138,007	174,955	179,172	189,006	204,179	217,154	300,500



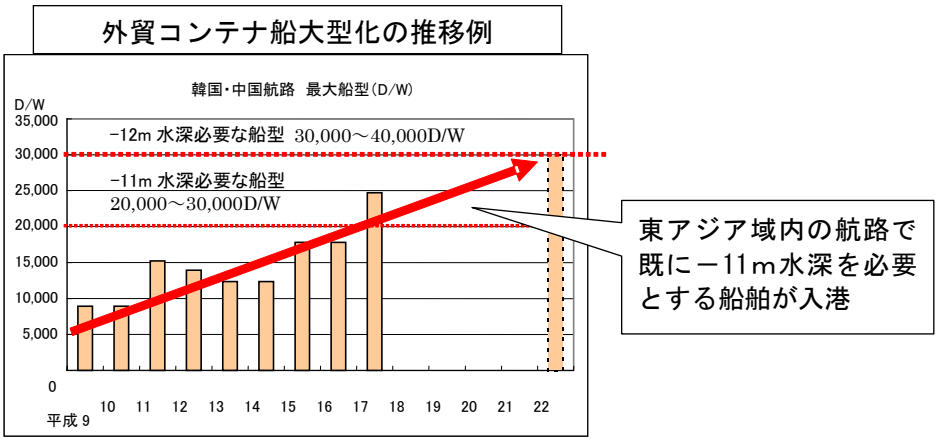
外貿コンテナ個数

Ⅲ．対　応

●東港区弁天地区中央ふ頭の連続バース化及び耐震強化

１）中央ふ頭の連続バース化について

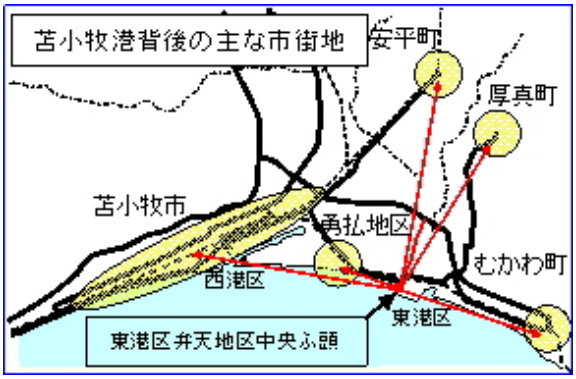
西港区本港地区入船国際コンテナターミナルにおける滞船などの諸問題の解決を図るとともに、今後さらに増加する外貿コンテナ貨物と船型の大型化に対応するため、東港区弁天地区中央ふ頭に岸壁－14m（330m）と－12m（240m）の連続バースを計画し、集約化による効率的な外貿コンテナ貨物の取り扱いを図る。



２）耐震強化について

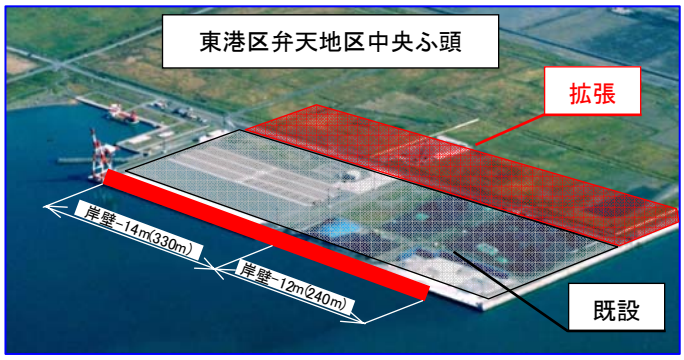
苫小牧港は産業活動や地域経済を支える役割を持つ一方、市民生活・道民生活を支える重要な役割を持つ港湾であることから、災害時における防災機能、海路を活用した避難機能、また、被災地域への物流機能などを確保する必要がある。

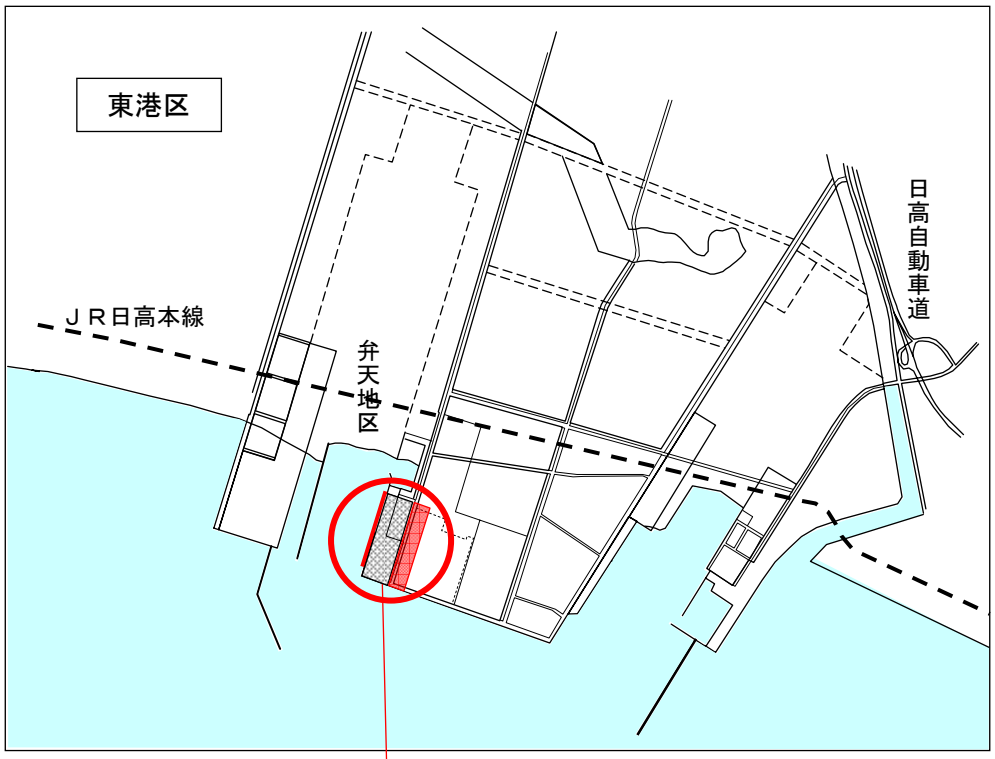
このため、連続バース化と合わせて大規模地震時における地域への緊急物資輸送等の確保のため－12m岸壁の耐震強化を図るものである。



Ⅳ. 施　設

・水深 14m 岸壁に続く連続バース（水深 12m）
・埠頭用地の拡張
・道路の変更
・ガントリークレーン





東港区弁天地区中央ふ頭の
連続バース化と耐震強化
施設計画：岸壁－14m L=330m（うち 280m 既設）
岸壁－12m L=240m（耐震強化）
埠頭用地
道路
ガントリークレーン

（２）西港区汐見地区小型船だまり

Ⅰ．現状と課題

【第１船だまり】

タグボートの大型化に対応可能な係留施設が不足

【第３船だまり】

係留施設の不足と手狭な荷捌用地

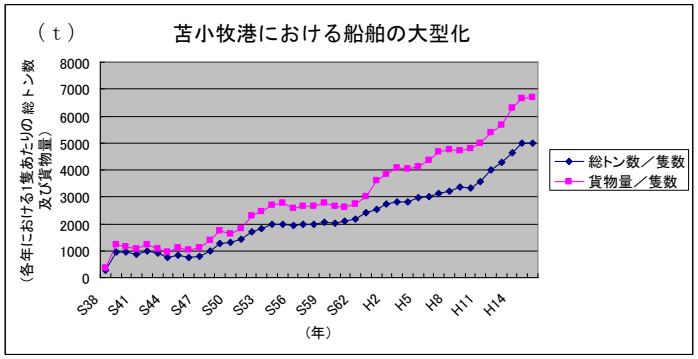
第１船だまりに停泊するタグボート

第３船だまりの多層係留と荷捌用地の狭隘状況

【第１船だまり】

近年、一般貨物船やコンテナ船等が大型化し、安全で効率的なポートサービスの提供を行うために、タグボートの能力の増強が求められている。

このため、現有タグボート９隻のうち２隻について、4,000PS 級に大型化する計画があり、これに対応した係留施設整備が必要となっている。



※　１隻あたりの総トン数・貨物量ともに増加を示しており、苫小牧港における船舶大型化が進んでいる。

【第３船だまり】

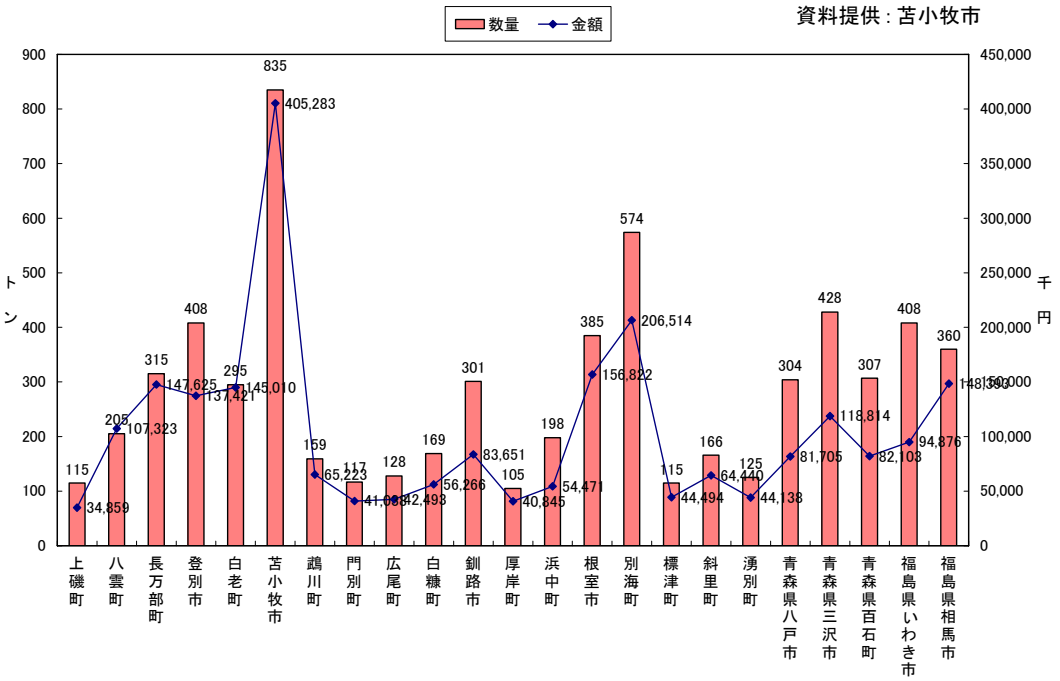
1）西港区第３船だまりは、太平洋側が日本海側に比して冬期でも静穏であることから、１年を通して水産活動ができる港であり、ホッキ貝の水揚げでは日本一となっているほか、近年では第３船だまりとフェリーなどの内航船が近接していることにより、本州方面への新鮮な水産品輸送も行われるようになってきている。

2）地元小型船の利用のほか、夏から秋にかけては太平洋を北上するイカ漁の盛漁期に外来船も多数入港していることから、係留施設の不足よる多層係留は、常時３～４隻、外来船入港時には６隻にもなっている。

3）多層係留により、乗込みや荷物の積込時には船の上を移動しなければならず、安全性が大きな問題となっているほか、陸揚げ岸壁の不足による滞船、荷捌用地の手狭さなども水揚げ作業の支障となっている。

4）また、ホッキフェスタ等のイベントが開催されているが、交流の場としての面積が不足している。

平成16年　市町村別ホッキ貝生産量



ホッキフェスタで賑わう第３船だまり

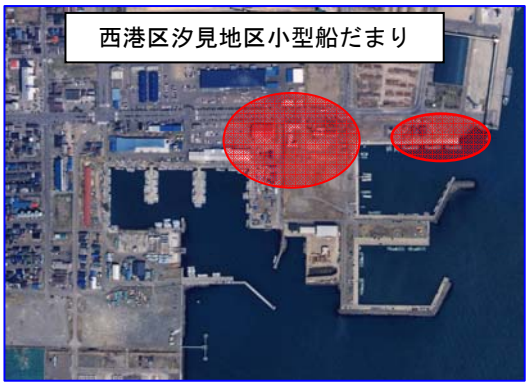
Ⅱ．対　応

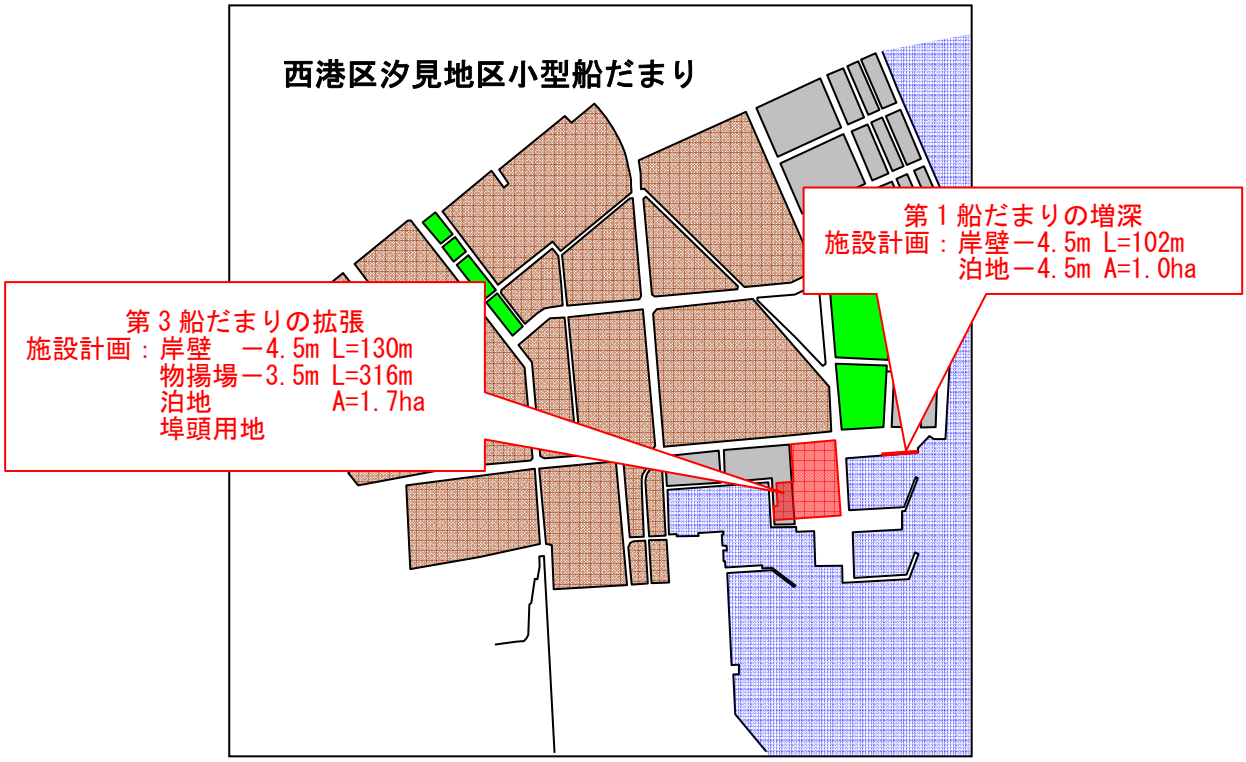
- **第１船だまりの岸壁及び泊地を増深**
- **第３船だまりの岸壁及び泊地等を新設**

・　第１船だまりの岸壁及び泊地の一部を増深し、タグボートの大型化への対応を図る。
・　第３船だまりを拡張し、多層係留及び荷捌用地不足の解消等を図る。

Ⅲ．施　設

【第１船だまり】
　－4.0m岸壁及び泊地を－4.5mに増深
【第３船だまり】
　岸壁及び泊地等の新設





4. 苫小牧港港湾計画(一部変更)位置図(東港区弁天地区中央ふ頭・西港区汐見地区小型船だまり)

西港区

勇払地区

真古舞地区

本港地区

汐見地区

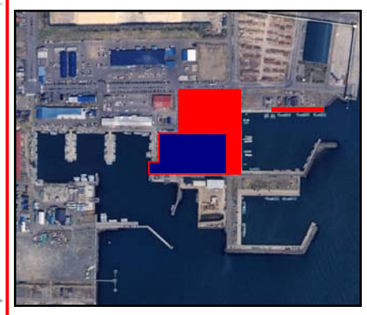
勇払浜地区

東港区

弁天地区

浜厚真地区

■西港区汐見地区小型船だまり

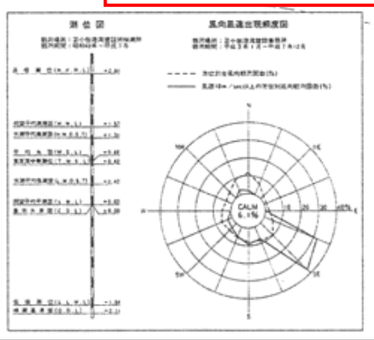


・第１船だまりの岸壁及び泊地の増深

・第３船だまりの岸壁及び泊地等の新設

■東港区弁天地区中央ふ頭

・連続バース化及び耐震強化



凡　例	
今回計画箇所	
工業用地等	(既設) (計画)
ふ頭用地	
緑地	
臨港地区	

1：60,000